

山守

〔倭訓栞中編二十七〕やまもり 山守なり、日本紀萬葉集にみゆ、

〔日本書紀應神〕四十年正月甲子、立菟道稚郎子爲嗣、即日任大山守命、令掌山川林野、以大鷲鷄尊爲太子輔之、令知國事、

○按ズルニ、古代山官ノ事ハ、官位部伴造篇ニ在リ、

〔續日本紀元明〕和銅三年二月庚戌、初充守山戶、令禁伐諸山木、

〔萬葉集相聞〕石川夫人歌一首

神樂浪乃大山守者爲誰可山爾標結君毛不有國

〔後撰和歌集春〕花山にて、道俗酒たうべける折に、

山守はいはいはなむ高砂のをへの櫻をりてかざむ

素性法師

名山

〔枕草子〕山はをぐらやま みかさ山 このぐねやま わすれ山 いりたちやま かぜや

ま ひばのやま かたさり山こそ誰に所をきけるにかとをかしけれ、いつはたやまのち

せの山 かさどり山 ひらのやま とこの山は、わが名もらすなど、みかどのよませ給ひけん、

いとをかし、いぶき山 あぶくらやまよそに見るらん、いとをかしき、いはた山おほひれや

まもをかし、りんじのまつりのつかひなど思ひ出でらるべし、たむけ山 みわのやまいとを

かし おとは山 待かね山 國さか山 耳なし山 すゑのまつ山 かづらき山 みの、お

やま は、そやま くらゐ山 きびのなかやま あらし山 さらしな山 をばすて山 を

しほ山 あさまやま かた、め山 かへるやま いもせやま

〔奥義抄上ノ末〕出萬葉集所名 普通名所不注

山

山城 ささぎざか山 又ほそのひれ共、

同 神山

大和 みもろ山 見毛呂

こせ山 古勢

をすての山